

第1号議案

令和元年度 事業報告書

社会福祉法人つつみ会
児童養護施設 樹学園

目 次

1. 事業内容	1～4
(1) 養護支援	1
(2) 家庭支援	1
(3) 退所児童のアフターケア	1～2
(4) 権利擁護	2
(5) 事故防止と安全対策	2
(6) 関係機関連携・地域交流	2
(7) 余暇指導	2～3
(8) 実習生やボランティアの受け入れ状況	3～4
(9) 寄付・寄贈品	4
2. 児童の状況	4～5
(1) 措置児童の推移	4
(2) 退所児童の状況	4
(3) 一時保護児童の状況	4
(4) 児童の就学状況	4
(5) 入所児童の措置理由	5
(6) 児童の健康状況	5
3. 職員の状況	5～8
4. 苦情解決の概要	8

1. 事業内容

(1) 養育支援

令和元年度は、3名の職員が採用されて夜間の宿直を2名から3名体制に整えることが出来た。経験の浅い職員のOJTの機会も充実し、小規模化に向けた人材育成に取り組んでいる。更に、家庭養育推進計画に沿ったハード面の整備も計画的に進めていきたい。

4月より里親支援相談員を配置して、関係機関と協議しながら委託対象児童を選定して里親家庭とのマッチングを行った。結果として委託は実現しなかったが、里親交流を経験した上で、施設生活の継続を児童が自ら選んだ。

今年度から茨城県児童養護施設協議会主催で、施設交換実習を開始した。他施設の現場で実習させてもらいながら、自施設の支援内容を振り返り、今後活かす貴重な体験として1名が参加した。

特別支援学校中等部へ入学した女兒は、小学校時代よりも力を発揮し、クラス活動やスポーツにも活躍の機会が多くなった。同学年とは違う進路を納得して受け入れていく過程では配慮を要したが、特性に合った学びの場が大切であることを感じている。

一昨年に学校不適応が見られた児童は、学校との連携した支援の継続によって徐々に周囲に溶け込めるようになり、現在は問題はほぼ解消した。

食生活面では、食文化に触れた行事食や誕生児のリクエストメニューを計画的に取り入れ生活に潤いを与えた。嗜好調査の結果から、栄養価を踏まえた上で児童の嗜好も献立に組み入れ児童の食事に対する関心を高めた。

健康面では、症状に応じた受診や嘱託医の訪問診療を受けて、早期の治療を実施した。受診科目では、小児科/内科・歯科・児童精神科・皮膚科・眼科の順に受診が多かった。今年度は、疑いも含めて12月末に7名がインフルエンザに罹患したが、それ以降の発生は見られなかった。

2月に新型コロナウイルス感染の問題が発生し、3月から休校措置が始まった。うがいや手洗い検温・マスク着用を徹底することで、児童・職員に感染予防の実践を図っている。3か月に及ぶ面会制限や外出自粛措置が続いているが、樹学園独自のスケジュールを組んだり、生活の仕方に工夫を加えたりして、健全な園生活を送っている。今後、休校措置が長引く場合は、体力の低下や学力低下が懸念される。

心理的なケアの必要な16名の児童に対して、遊戯療法やカウンセリング等を延べ202回実施した。児童の成長のサポートと児童に関わる職員のサポートにも役割を担った。

(2) 家族支援

定期的な家族交流と関係機関の面接や家庭調査によって、4家庭の家庭引き取りが成立した入所児童への他害行動が発覚した女兒のケースは、家庭の一時帰宅を実施した結果、保護者との関係改善が図られ、主訴も解消して家庭引き取りが実現した。

外出や一時帰宅後の観察と、家庭からの相談にも応じて、家庭との信頼関係作りに努めた。

(3) 退所児童のアフターケア

退所児童の現況確認や相談を受けた内容は、必要に応じて児童相談所へ報告を行った。

3月末には、就職自立の男児が退所し、現在もアフターケアを継続している。今年度の電話・来園時対応は計48名だった。

(4) 権利擁護

新採職員3名が、茨城県児童福祉施設協議会主催の『権利擁護・虐待根絶の研修』を受講し、被措置児童虐待防止の取組や施設内虐待の実態、児童相談所の虐待対応、自己診断・分析等を学んだ。毎月の職員研修を通して児童の人権について見識を深め、職員の資質の向上に努めている。また、全職員で「人権擁護のためのチェックリスト」を年4回行う事で、定期的に養育を振り返る機会を設けている。

児童からの意見表明は、毎月の児童会で確認すると共に、夏休みに理事長と意見交換が出来るように努めている。

第三者委員による苦情解決委員会を年2回開催して、養育支援の報告と権利擁護についても検証を行った。意見箱への意見投書は0件だったが、日常や定例児童会において発信する場を持つことで主体的に考えるよう支援した。

(5) 事故防止と安全対策

職員会議において、ヒヤリハット・事故の報告からその要因を探り、対応を振り返って事故防止の共有を図った。ヒヤリハットの報告は35件、事故の報告は109件で、一時保護幼児やADHD学齢児童によるトラブルが多かった。ADHD児童は、4名が定期通院により主治医に相談、服薬指導を受けており、1名はこども病院からこの医療センターへ転院した。事故報告が頻回な小1男児も3月から通院を開始した。

災害時の安全確保においては、定期的に火災、地震等の避難訓練を実施し、8月・3月には消防署や関係機関に協力を得て、総合防災訓練を実施した。

また、リスクマネジメント委員会では、園内の危険個所を調べ、改善に努めるとともに、戸外の遊具チェックリストを作成して定期的な点検を実施した。

(6) 関係機関連携・地域交流

小・中学校と定期的な連絡協議会を開催して、入所児童の理解や困難な課題を抱える児童の共通理解を図り、個別的な配慮をお願いした。ADHDと異物を含む特性がある児童は学校での不適応場面も多く、専門的な支援がより必要となったため、児童心理治療施設へ措置変更となった。

家庭との交流状況や児童の様子を管轄の児童相談所へ随時報告し、支援方法を共有しながら関係の再構築が図れるように努めた。今年度は、3組の家庭引き取りが実現した。

地域子供会への入会や、園行事への参加を呼び掛ける等、地域住民との交流にも努めている。幼・小・中のPTA役員に積極的に参加し、地域の保護者との交流を図っている。

茨城町子育て短期支援事業の今年度利用は無かったが、新たに小美玉市との子育て短期支援事業契約を結んだ。

(7) 余暇指導

児童の生活に潤いをもたらす、情緒の安定と社会性の向上を目指すため、年齢に応じた各種行事を実施した。

○ 園行事

- 4月 いちご狩り(全児)
- 6月 縦割り外食
- 7月 小鶴祇園まつり(学齢児) プール(小学生) プール(幼児)
- 8月 栃木県ペンション宿泊(小学生) 愛宕山ロッジ宿泊(幼児)
ラウンドワン(中高生) つつみ祭(全児)
- 9月 ディズニーシー(幼児)
- 10月 那須登山(中高生)
- 11月 動物園(未就園児) アクアワールド(幼稚園児) ツインリンクもてぎ(小学生)
- 12月 クリスマス会(全児) 映画(中高生)
- 1月 イルミネーションバスツアー外出(中高生) 映画外出(小学生)
- 2月 豆まき(全児) アクアワールド(幼児) テーブルマナー(中高生)
- 3月 ひな祭り(幼児) 各棟調理実習(幼児・女子棟・男子棟・小規模)
*他に、担当外出や誕生日当日に誕生会を実施

○ 地域行事

- 6月 あじさいまつりダンス発表
- 9月 桜の郷元気敬老会ダンス発表
- 10月 小堤地区おまつり
- 11月 いばらきまつり
ふるさと交流会
- 12月 子供会クリスマス会

○ 招待行事

- 4月 茨城ロボッツ・バスケットボール観戦
- 8月 ミュージカル観劇
- 9月 栗拾い招待
- 11月 あいの家感謝祭 ホーリーホック観戦
- 12月 アクアワールド

○ スポーツ大会への参加

- 4月 茨児協ドッジボール大会
- 6月 特別支援学校体育連盟体育大会(中1女児)
- 7月 茨児協ソフトボール大会

(8) 実習生やボランティアの受け入れ状況

福祉人材の育成と開かれた施設運営という観点から、福祉系大学、専門学校4校から保育士免許志願者7名の実習生を受け入れた。また、義務教育教員免許志願者の介護等体験を2名受け入れた。

ボランティアとして、行事・学習・保育・絵画・ダンス指導・七五三着付け撮影・移動図書館の場面で、8名と8団体から協力を頂いた。中学生への受験対策や、小学生の学習対応として

地域の人材活用を図り、定期的に園内で指導を受けた。(団体名/筑波研究学園専門学校・
 リーこどもスポーツ専門学校・つくば国際短期大学・茨城女子短期大学・常陽の森ボランティア・
 湊エコライフの会・アストロプラネッツ・町図書館)

(9) 寄付・寄贈品

23名と17団体から食料品やおもちゃ、日用品、テレビ等のご寄付を頂いた。

2. 児童の状況

(1) 措置児童の推移 定員:35名 延べ人数の()は年間平均人数

		4月	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	延べ人数
元年度		33	33	34	34	34	34	34	35	35	34	34	34	408 (34)
月 間	入所	虐待	1						1				1	3
	退所	家庭 復帰								1			3	5
		自立											1	
30年度		31	31	31	29	30	32	34	35	35	34	34	34	385 (32)

(2) 退所児童の状況 (令和2年4月1日現在)

児童	性別	就学状況	在籍期間	退所後
A	女	小6	H28.11.25~R1.12.23	家庭引取
B	男	高3	H25.6.20~R2.3.11	自立
C	男	小3	H30.5.14~R2.3.25	家庭引取
D	男	小3	H27.12.22~R2.3.29	家庭引取
E	男	幼児	H27.12.22~R2.3.29	家庭引取

(3) 一時保護児童の状況 (令和2年4月1日現在)

児童	性別	就学状況	在籍期間	退所後
A	女	幼児	H31.1.8~R1.4.19	家庭引取
B	女	幼児	R1.4.5~R1.5.20	樹学園入所
C	男	幼児	R1.5.7~R1.6.27	他施設入所
D	男	幼児	R1.7.5~R1.11.1	樹学園入所

(4) 児童の就学状況 (令和2年4月1日現在)

	幼稚園		小学生						中学生			高校生			幼児 未就 園児	合 計
	年中	年長	1	2	3	4	5	6	1	2	3	1	2	3		
男	1	0	0	1	1	1	1	1	3	2	1	1	0	0	0	13
女	1	1	3	0	0	3	0	2	3	1	0	0	0	2	2	18
計	3		13						10			3			2	31

(5) 入所児童の措置理由（児相別）

措置理由	中央児相				銚田児相				土浦児相				合計
	幼	小	中	高	幼	小	中	高	幼	小	中	高	
虐待					2	1	1	1		1	2	2	10
ネグレクト	1		1			1							3
養育困難		3	1		1	3			1	5	2		16
親の精神疾患		1									1		2
経済的理由													0
計	1	4	2	0	3	5	1	1	1	6	5	2	31
合計	7				10				14				

(6) 児童の健康状況（通院状況） 令和元年度

診療科目	実人数	延べ人数
小児科・内科	26	90
外科・整形外科	15	22
児童精神科	5	52
神経内科	1	4
耳鼻咽喉科	2	5
歯科	19	86
皮膚科	10	46
眼科	19	32
その他	5	6

* 嘱託医の診療は除く

3. 職員の状況（令和2年4月1日現在）

職種	園長	副園長 FSW	事務	FSW	個別 対応	里親 専門	指導員 保育士	心理	栄養士	調理員	パート	合計
	1	1	1	1	1	1	15	1	1	3	3	29

令和元年度は3名の職員が入職し経験年数の浅い職員も多いことから、応急処置の園内研修や、職員のキャリアアップを図るために各種団体が主催する外部研修へ職員を派遣した。心理職員による年2回の職員メンタルヘルスケアにも取り組んだ。

令和元年4月から里親専門委員を設置し、関係機関と連携しながら里親委託の推進や里親家庭への支援に努めた。

○ 園内研修

令和元年7月10日 救急救護講習 茨城町消防本部

令和元年11月12日 施設監査について 園長

○ 園外研修・出張

月	茨城県児童福祉 施設協議会	茨城県社会福祉 協議会	里親関係	その他
4	施設長部会・定期 総会・役員会	新任職員研修会	里親専門委員会・中央管 内6市町村挨拶・里親支 援会議・中央児相管内ミ ーティング・中央児相管 内里親支援会議	鹿嶋市要保 護児童対策 地域協議会
5	施設長部会・従事 者部会・役員会・ 三委員会合同事例 検討会・監督者会 議・県中央地区施 設合同研修会打ち 合わせ	リスクマネジメント 研修・発達研修	水戸地区里親会・里親相 談セミナー・里親専門委 員会・養育里親更新研修・ 中央管内里親支援会議・ 管内ミーティング	
6	施設長部会・従事 者部会・新任研修・ 県中央施設合同研 修会・監督者会議	相談援助業務担当 者研修(初任者コー ス)・キャリアパス研 修(中級)	専門里親情報交換会・ 中央管内里親支援会議・ 管内ミーティング・養育里 親基礎研修・里親応援セ ミナー・水戸地区里親会 春の親子レク	
7	施設長部会・役員 会・キャンプリーダ ー研修・児童食育 委員会		認定前研修・里親支援 連絡会議・里親応援セミ ナー・中央管内里親支 援会議・茨児協里親専 門委員会	
8	施設長部会・従事 者部会	中堅研修	杉の子のつどい・茨児協 里親専門委員会・管内 ミーティング・中央管内 里親支援会議	
9	施設長部会・オレン ジリボン打ち合わせ・ 虐待根絶の為の研 修・心理委員会・役 員会・県中央施設合 同研修会打ち合わせ	アンガーマネジメン ト研修	小美玉市にっこりまつり・ 新規里親宅訪問・管内ミ ーティング・中央管内支援 会議・里親応援セミナー	子どもの虹 指導者研修

10	施設長部会・北部合同研修会・体験教室・事務研修・従事者部会・心理委員会・オレンジボンたすきリレー試走	メンタルタフネス研修・広報研修	広報活動・市町村制度説明会・人材確保に繋げる広報研修・養育里親基礎研修・里親宅家庭訪問・茨児協里親専門委員会・全国一斉里親制度啓発・管内ミーティング・中央管内里親支援会議	関ブロ児童養護施設職員研修会・社会的養育セミナー
11	施設長部会・役員会・オレンジボンたすきリレー・県中央地区施設合同研修会・県南西八施設合同研修会・県外施設見学・児相との連絡会議・施設交換実習		いばらき祭り広報活動・認定前研修・茨児協里親専門委員会・里親支援連絡会・ホーリーホック戦広報啓発活動・里親応援セミナー	里親研修
12	施設長部会・従事者部会・FSW委員会・保育実習打ち合わせ・心理委員会・食育委員会・人材育成と人材定着の研修	クレーム対応力強化研修B	管内ミーティング・中央管管内支援会議・茨児協里親専門委員会・里親応援セミナー	全養協施設長研修
1	施設長部会・役員会・心理委員会・茨児協事務研修・県中央研修・小規模グループリーダー専門職研修		茨児協里親専門委員会・管内ミーティング・中央管内支援会議・応援セミナー	
2	施設長部会・従事者部会・ボーリング大会・職業指導員との連絡会・児童食育委員会	記録の書き方研修B・社会福祉施設等給食担当職員研修	里親連合会研修会・里親応援セミナー・茨児協里親専門委員会・未委託里親宅家庭訪問	関ブロ事務・運営管理者研修会・実行委員会・児童福祉施設心理担当職員合同研修

3			応援セミナー・管内ミーティング・中央管内支援会議・茨児協里親専門委員会	
---	--	--	-------------------------------------	--

4. 苦情解決の概要

下記の通り解決を図った。

申立者	苦情内容	顛末
近隣住民	申立者の敷地内に当園児童が入り、水道栓の蓋にしていた空き缶を蹴って外した。申立者の話によるとこの蓋は、以前当園児童によって壊され、空き缶を代用していたものであるため、今回は修理して欲しいとの要望	相手方の立会いのもと、町指定業者に蓋を取り付けてもらい、工事は完了する。